②

070128_ 教育条件委員会活動報告

１　今後の活動について

・第３回 三河教育条件委員会　＜令和７年２月２１日（金）＞
　各市町の予算要望内容や市町教委の予算措置の状況を情報交換します。
　会議後に各地区委員にご質問いただけば、他市町の情報を確認できます。

２　次年度の予定について

①県予算学習会

令和７年１０月８日（水）１３：３０～１５：３０
＜県教育会館７階　大会議室＞

・陳情の対象となる県議会議員がおみえの市町の先生方にお手数をおかけします（令和６年度は岡崎、豊田、豊橋、豊川、新城の５市）。
・１０～１１月に行っていただく県議会議員への教育予算陳情の打ち合わせをしていただきます。

②セカンドステージセミナー（ＳＳＳ）

令和７年１１月７日（金）　三河地区　１３：３０～１５：３０
＜県教育会館７階　大会議室＞

・役職定年を迎えられる校長先生が対象になります。
・役職定年後のお金にかかわる悩みに対して様々な説明をいただける機会です。退職金の計算方法についても詳しく教えていただけます。
・午後にご都合が悪ければ午前に行われる尾張地区の説明を聞くことができます。

※対象となる先生方におかれましては、ご予定に入れていただけるとありがたいです。

三河校長会　令和６年度　委員会のまとめ

研究主題

進路指導に関わる諸課題を解決するための実態調査・研究

④

進路委員会

１　はじめに

令和５年度入試から公立高校において新たな入学者選抜制度が始まり、さらに令和６年度入試からはWeb出願システムが導入された。また、公立高校では未だ2,000人近い欠員がいることや多様な生徒の学習ニーズに応えるために、県立高等学校再編将来構想具体化委員会において公立高校の魅力化・特色化を検討している。そして令和７年度入試からは中高一貫校をはじめとした新たなタイプの学校が順次開校していく。進路委員会の役割として、一人一人の生徒に寄り添った確かな進路指導を実現するための最新情報の即時提供に努めていく。さらに、進路指導の基礎資料として中学３年生の進路希望状況を把握し、現状分析・入試結果の分析を行っていく。また、新たな入試制度を検証し、よりよい制度となるよう改善を求めること、さらには中学校の進路指導が抱える課題の解決に向けて、昨年度末に行ったアンケート調査を基に各関係機関との協議を進めていく。以下にその概要の一部を報告する。

２　調査の内容及び結果考察

県内すべての公立中学校に、「進路指導アンケート調査」および「公立・私立・専修各種学校などへの進路状況及び就職状況調査」を実施し、令和６年度入試の実態と課題を把握している。調査結果から、私立高校での特待生の勧誘に対する意見が年々増えており、中学校側が苦慮している状況が現れている。高校やクラブのコーチによる安易な発言が、中学校と保護者のトラブルになったケースなどである。令和４年度から私立高校にて実施されている特色入試については、これまで課題が多く指摘されてきたが、目的や実施方法が改善・周知され、意見も減ってきた。学校見学の申込方法も同様である。〈表1-1〉

〈表1-1〉私立高校集約結果（一部抜粋）（%）

項　目	R４末	R５末	前年比
特待生の勧誘	11.8	16.6	+4.8
調査書	6.5	7.2	+0.7
進学相談	6.1	8.0	+1.9
推薦書	5.8	5.0	−0.8
学校見学等の申込方法	4.8	1.9	−2.9
出願関係書類	4.5	4.2	−0.3
特色入試	3.2	1.1	−2.1
合格通知	7.2	6.4	−0.8

（Ｒ５年度末進路アンケートより）

公立高校に関係する要望では、令和６年度から導入されたWeb出願システムに関する内容が多かった。「登録情報の修正方法を簡素化してほしい」「データをソートした際の出願システム画面について改善してほしい」「調査書情報を登録したら出願情報と紐付けされるようにしてほしい」といった意見があった。また、iCloudのメールアドレスから合否結果が見られないといった不具合もあった。これらについては、より使いやすいシステムになるよう強く改善を要望している。〈表1-2〉

〈表1-2〉公立高校集約結果（一部抜粋）（%）

項　目	R４末	R５末	前年比
受検生情報の確認・修正・承認	−	10.4	−
推薦・調査書情報の登録・承認	−	15.6	−
合否結果の承認	−	10.6	−
入試日程	15.4	8.0	−7.4
特色選抜	9.2	1.5	−7.7
学校見学等の日程	20.2	13.0	−7.2

（Ｒ５年度末進路アンケートより）

本調査では、広域通信制高校（サポート校

を含む）への進学者数の調査も行っている。具体的に、どの学校にどれだけ進学しているか、全国110余の広域通信制高校ごとの進学者数を確認し、その傾向を追っている。その結果、ルネサンス豊田高等学校(476 人)、N高等学校(197人)、S高等学校(195人)、飛鳥未来高等学校（188 人）などに多く進学していることが判明した。また、新規参入する学校も増えており、統計調査が難しくなってきている。令和６年度入試では、全県で 2,573人の生徒が広域通信制高校に進学しており、昨年度比で100名ほど増加した。以前に比べると増加率は鈍化したものの、増加傾向は続いている。

３　関係機関との協議

進路委員会の調査結果や県による調査結果の分析を基に、中学校が抱える課題と対策について県教育委員会や県高等学校長会、県私学協会、県専修各種学校連合会など、各関係機関と対話する場を重ねた。

〈表 2〉公立高校（全日制）欠員状況

年　度	R2	R3	R4	R5	R6
欠員数	1,502	2,669	2,627	2,272	1,984
前年増減	＋532	＋1,167	-42	-355	-283

県教育委員会や県公立高等学校長会と公立高校の欠員の大幅増加にどう対応していくのか、中高のそれぞれの実情を鑑み、協議を重ねた。高校の欠員数について、公立高校は令和３年度から 2,000 人を超えている。〈表 2〉本年度は令和５年度入試と比べると、欠員数283 人減の 1,984 人で久しぶりに 2,000 人を切った。なお、全日制進学見込率を令和５年度は 91.1%、令和６年度は 90.6%としている。一方、私立高校は今年度 932 人（充足率95.6%）の欠員があり、昨年度より欠員数が300 人増加している。令和２年度の私立高校授業料無償化拡大により、令和３年度や４年度の充足率が 99%と一時は高まった。しかし、ここ２年間は下降傾向にある。

欠員状況についてさまざまな要因が考えられる中、県立高校も普通科の魅力化・特色化の検討や中高一貫校やフレキシブルハイスクールの導入、夜間中学の設置などに取り組んでおり、関係機関と協議を重ね、よりよい方策を模索していきたい。

また、県私学協会とは、私立高校の入試日程や手続きなどに関して交渉を進めてきた。ほとんどの高校が Web 出願を導入しており、中学校側の入試事務も効率化が図られてきた。体験入学の申込方法の簡便化に向けて理解を得られている。今後も、入試日程や出願方法などの情報確認を密にし、最新の情報を全中学校へ即時伝達する役割を担いたい。

４　おわりに

公立入試において、一昨年度の大幅な日程変更に加えて、昨年度は Web 出願システムが導入された。それに対応するべく中学校では情報の周知とシステムの準備など、引き続き現在進行形での即時即応を迫られた一年であった。新たな入試制度の検証と改善を要望していくとともに、今後も大きく変容していく公立高校をはじめとした入試に関わる最新の情報を得て、全体への周知を図る重責を感じている。

進路希望に関して、全日制が減少傾向であるのに対し、広域を含む通信制は引き続き増加傾向にある。未だ 2,000 人近い公立高校の欠員も大きな課題である。また、小中学校では、特別支援学級に所属する児童生徒が年々増加しており、今後も 県立特別支援学校の新設や定員増の課題なども深刻化していくと思われる。このように、進路に関する課題は山積しているが、何より生徒の望ましい進路選択となるよう、関係機関と粘り強く協議を重ね、要望を伝えて最適解を導き出すことで、よりよい進路指導に努めていきたい。

⑬

研究主題

東陸小愛知大会の在り方と運営に関する調査研究について

東陸小愛知大会特別委員会

1　はじめに

東陸小愛知大会特別委員会では、令和４年度より、全連小の研究主題「自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る　日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受け、愛知大会の副主題やその基本構想、また、大会のもち方などに愛知らしさをいかに出していくかなど、多角度からの検討を重ねてきた。

本年度は、いよいよ愛知大会を開催する年を迎えた。これまでの調査研究内容をさらに深め、愛知大会の円滑な運営を企図するとともに、大会がより充実し、参加者が互いに学び合い、学校運営に寄与できる大会となるよう、尾張・三河・名古屋の三地区で協力し調査研究を進めてきた。

2　調査研究の実際について

東陸小愛知大会特別委員会では、愛知県小中学校長会と名古屋市立小中学校長会との合同委員会として活動を行ってきた。

(1) 特別委員会の構成

○尾張特別委員会（6 名）

・尾張地区の大会実行委員長・庶務部長・総務部長・研究部長・編集部長・運営部長

○県特別委員会（24 名）

・会長

・顧問（県校長会・名古屋市校長より各１名）

・愛知県小中学校長会事務局（局長・次長）

・大会実行副委員長（三河地区・名古屋市より各１名）

・各部副部長（三河地区・名古屋市より各１名）

・尾張特別委員会

○県実行委員会（39 名）

・県特別委員会

・各部実行委員（尾張地区 15 名）

○県準備委員会(138 名)

・県実行委員会

・各部準備委員（99 名）

(2) 調査期間

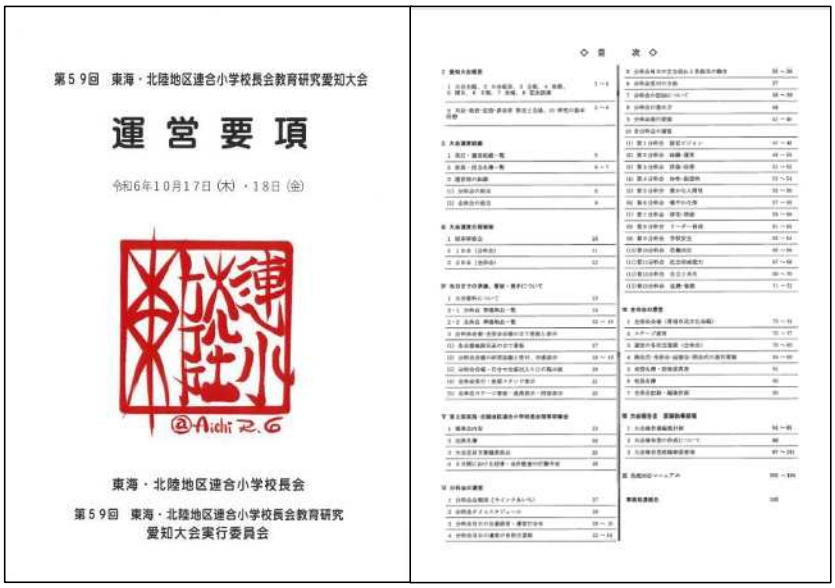
令和６年４月から令和７年３月

(3) 研究の実際

尾張特別委員会（計６回)、県特別委員会（計７回)、県実行委員会（計５回)、県準

備委員会（計４回）、各部会（複数回）等の会議を行い、以下の点について調査研究を進めてきた。

①　全体会、分科会の運営要項の作成と開催準備


第５９回　東海・北陸地区連合小学校長会教育研究愛知大会

運営要項

令和6年10月17日（木）・18日（金）

@Aichi R.6

東海・北陸地区連合小学校長会

第５９回　東海・北陸地区連合小学校長会教育研究
愛知大会実行委員会

◇目　次◇

R4 年度からの研究成果を受け委員会で話し合いを重ね、運営要項を 8 月に完成させた。

今回の愛知大会は、分科会をウインクあいち(愛知県産業労働センター)(名古屋市)、全体会を常滑市民文化会館で開催した。分散開催を見据え、計画を全委員で共有し、円滑な運営が行えるように、運営要項を緻密に作り上げる必要があった。運営部では、分科会、全体会の具体的な運営構想を練り、名古屋会場と常滑会場の下見、会場や業者との打ち合わせを重ねた。それらを基に部会、委員会で時間をかけて慎重に協議を重ね、運営要項を作成した。

8 月 27 日に常滑市民文化会館にて第 3 回県実行委員会、準備委員会を予定していたが、台風接近のため紙面開催となった。そのため大会実施前の全員での打ち合わせが 9 月 27 日の 1 回のみとなった。9 月 27 日には運営要項を全委員に配付し、10 月 17 日(木)分科会、10 月 18 日(金)全体会の流れ、各係の役割について、細かな部分まで全体で共有した。また、舞台上で全体会のリハーサルを行い、会場の舞台担当職員や映像･音響担当業者と打ち合わせをすることができた。

打ち合わせ、リハーサルの結果を踏まえて、当日まで開催施設や映像･音響担当業者と打ち合わせを重ね、当日の開催を迎えることができた。

②　大会要録の作成と分科会運営準備

これまでの調査研究の成果を基に大会当日に配付する大会要録の作成を行った。発表者への機器の使用調査や原稿依頼、原稿のとりまとめや校正など、一つ一つ丁寧に発表者とやりとりをしながら完成に向けて進めていった。

要録には、公益財団法人愛知県教育振興会にご協力いただいて当会発行の「愛知カルタ」を随所に掲載し、愛知らしさあふれる冊子になるよう工夫した。13 分科会の発表者からの多岐にわたる要望に応えつつ原稿をとりまとめるのは大変な作業であったが、部員の協力により、9 月 27 日に最終稿を校了し、10 月 10 日に納品され完成を見ることができた。

③　理事研修会の実施計画の検討と第１回・第２回理事研修会の実施

令和６年５月に令和６年度第１回理事研修会、10月に令和６年度第２回理事研修会を開催した。２回の理事研修会を同じ会場で開催したことで、会場準備、理事への案内等を円滑に行うことができた。開催に当たり、委員会で実施計画を検討し、第３回理事研修会の要項を作成した。校長会事務局と連携し、東海・北陸地区連合小学校長会理事の方々との連絡調整を行い、円滑で実りのある理事会の運営に努めた。

④　大会の実施

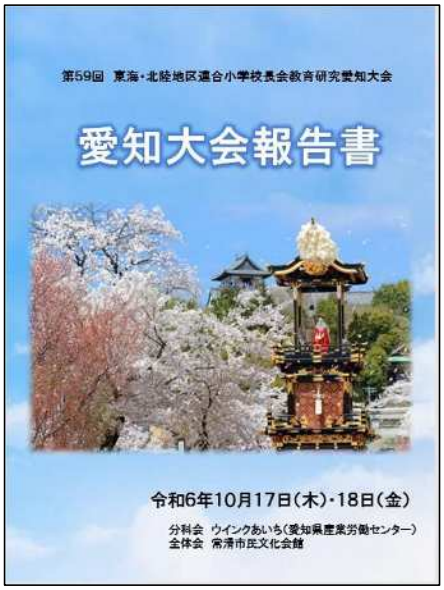
10月17日（木）ウインクあいち（愛知県産業労働センター）（名古屋市）にて分科会、10月18日（金）常滑市民文化会館で全体会を、およそ1300名の参加を得て開催した。当日は運営要項に従い、全委員が一致団結して精力的に運営を行った結果、大会を無事に終えることができた。参加者アンケートの結果概要を以下に挙げる。

	よい	おおむねよい	やや改善点あり	改善が大いに必要
分科会協議内容	371人（70%）	147人（28%）	8人（1%）	1人（-%）
分科会運営	335人（64%）	146人（27%）	39人（8%）	7人（1%）
全体会運営	329人（62%）	156人（30%）	34人（6%）	8人（2%）
記念講演	463人（88%）	58人（11%）	5人（1%）	1人（-%）

改善点として分科会の運営では「会場のエレベーターが混雑したこと」、全体会の運営では「会場が遠い」が多くあげられていた。今大会では、前回大会の会場である「名古屋国際会議場」が工事中であったため使用ができず、代替案として「常滑市民文化会館」にて開催した。ウインクあいちのエレベーターについては、入場時間を工夫することで改善が図られると考える。常滑市民文化会館が遠いという指摘に対しては、駅から徒歩圏内で、約1200人収容でき、駐車場も十分にあるという施設がなかったためやむを得なかった。次回開催時には、名古屋国際会議場が使用できれば運営に関しての改善を図ることが可能であると考える。

詳しい大会の報告については報告書を参考にされたい。

⑤　大会報告書の作成



愛知大会の報告書作成にむけて、大会前から準備を重ねてきた。分科会当日のグループ記録者(愛知県参加者)を決定し、報告について依頼するとともに、大会後に全体会について事務局よりテープおこしを、業者より写真データを受け取り、10 月 28 日までに報告書原稿を作成、集約した。記念講演については県校長会総会講演の報告文を参考に作成した。

その後校正を重ね、1 月 20 日までに発送を完了し、参加者および関係者への報告とする予定である。

⑥　予算の適正な執行

東陸小愛知大会の成功に向け、予算の適正な執行に努めた。委員会の度に会計報告と予算案について話し合い、大勢の目で確認し相談しながら予算執行を行ってきた。多額の予算を扱うに当たり、必要なものを精査しながら適切に予算を執行し、大会の成功につなげることができた。

3　次回大会に向けて

令和 4 年度より本大会の運営面のキーワードを「持続可能とウェルビーイング」と捉え、コストパフォーマンス、タイムパフォーマンスを意識して持続可能な大会運営を心がけてきた。例えば今大会では、「大会のご案内」「研究の手引き」を県校長会の HP に掲載し、紙媒体の配付を取りやめた。また、県特別委員会、県実行委員会、県準備委員会の会議資料をデジタル化し、Google ドライブを活用して、会議資料の配付を簡素化した。これまでの資料は、ドライブと記録媒体に残し、これらを活用して 7 年後の大会に向けて引き継ぎを行っていく予定である。

今大会主題は、「自ら未来を拓き　ともに生きる豊かな社会を創る　日本人の育成を目指す小学校教育の推進～　持続可能な社会の創り手として夢と希望をもって主体的・協働的に学ぶ子どもを育成する学校経営　～」である。この主題のもとで、ねらいを「校長の果たすべき役割と指導性」を明らかにすることに置いた活発な協議を行っていただいた。今後の学校経営や研究に生かしていただける大会になったことに感謝申し上げたい。